

我國の道路に關する予の希望

陸軍中將 和田 龜 治

悲しき諒闇丁卯の歳を送り茲に昭和三年の新春を迎ふるに方り本誌が捲土重來の勢で道路の改良發達に對し鼓を鳴らし聲を大にし天下同憂の士に訴へんことを誠には誠に其の時を得たものである。廣く思を世界の狀勢に馳せ眼を國內の現狀に轉ずる時其の改善施設を要する國家の事業は甚だ多いが道路改良の如きも正に其の一つであつて國運の進展を圖る上にも國防の完備を期する上にも頗る肝要な事と思ふ。

由來我國の道路が甚だしく粗惡で外人をして日本の道路は道路に非ず道路の豫定線であるなど、謂はゞ國辱にも等しい侮蔑の言辭を弄せしめた如きは甚だ殘念ではあるが歐米諸強の道路を見慣れた眼からすれば無理からぬ點もある。素より我國に於ても道路の改良が經濟上將た又軍事上一日も忽にすべからざる事は夙に認めて居た所で、去る大正八年に道路法が制定せられ道路に關する根本制度がこれによつて定められたのである。續いて全國に互る道路改良計畫が建てられ茲に道路政策上一新紀元を畫し我國道路の革命を來さんとしたのである。然るに不幸にも大正十二年の大震災や數次の財政整理と緊縮とに會ひ道路改良費に大斧鉞を加へられ將に伸びんことを美しい芽は

無慘にも截り去られて殆んど顧みられなくなつた事は實に遺憾な事で軍事上道路の改良に期待せし事柄も斯くして成果の見る可きものがなかつたのである。

抑々道路法制定の當時其の立法の精神道路網の決定乃至は其の改良計畫等は概ね軍部の要求を容れ國防用兵茲に軍隊の練成等の趣旨に基き其の根本が出来上つて居たのであるから今日認定せられて居る國道府縣道の路線は大體に於て軍事上の目的を有するもので其の構造の如きも軍用諸車輛の通過を標準として決定せられて居るのである然るに道路改良費の削減に由り道路改良事業の縮少を來せしと共に軍事上必要なる道路に對する要望の如きも稍輕視せらるゝ傾向が生じ特に軍事國道に關する施設の如きは殆んど顧みられぬと云ふ有様であるのは國防上予輩の甚だ遺憾に思ふ所である。

歐羅巴の各國では戰後道路の改善には非常な努力をして居る、首府より遠く隔離した片田舎に於ても其完備發達は實に驚く可きものがある。之は戰時の五ヶ年間殆んど手がかけてなかつたから戰後大に産業を獎勵して國富を増進せしめんとする考もあるが大戦中の苦い經驗から國防上どうしても道路を改良しなければならぬと云ふ眞劍な考が重きを爲してをるのである、元來歐米先進國は既に相當行届いた道路の施設を終つてゐる、然るにも拘はず、今尙ほ豊富なる財源を以て熱心に其の改良に従事して居るのは實に羨ましき限りである、之に比較したならば我國の現狀は甚だお恥かしき状態ではあるまいか、殊に非常時に際し鐵道は破壊せられ港灣は毀損せられた場合に於て唯一の交通機關たる道路が現狀の儘で放任せらるゝと謂ふ事は誠に寒心すべき事である。過ぐる關

東地方の大震災の時如何に道路が其の價値を發揮したかは世人の記憶に新たなる所であつて敢て多く言ふに及ばざるこゝ思ふ。

次に道路の完備改善云ふこゝに就て一言述べて見たいのである。昨秋陸軍特別大演習を愛知岐阜兩縣下で御施行になり予も親しく之に参加したが同地方の道路は概ねよく整備せられ當局者御努力の程に敬服したのであるが軍事上の見地からすればまだ、改善を要すべき點や將來戰の爲百尺竿頭更に一步を進め更に要望したい點も尠くなかつたのである。就中道路の幅員、曲徑、路面の構造、橋梁の負擔力及其の幅員等に於て然りである。是等の點に就き軍事上具備すべき要件を細部に亙り述べ度いのであるが餘り長くなるから今日は之を省略するこゝとする。然し畢竟軍用諸資材即ち野戰諸砲車、攻城重砲戰車、自動車等を自由に迅速に行動せしめ得る如く道路が施設せられて居らなければならぬ。殊に是等の軍用諸資材は日進月歩の趨勢を辿りつゝあるのであるから今日可なりとする道路も明日は既に其用を果し得ぬこゝも限らぬ故に道路の改修新設は現狀を用途を充たし得るのに満足せず國家永遠の用途を顧慮する事が必要である。換言すれば道路構造令の最小限を以て決して甘んずるこゝもなく思ひ切つて施設し國家百年の計を爲し置くこゝが肝要である。

予は嘗て道路に關する事柄を管掌する職務に就いて居た關係上我國の道路に就ては常に深く思を致して居るのである。予は官民一致協力により速かに道路の改良發達に邁進し一朝有事の際國防用兵上に缺陷なからしむるこゝ共に平時に於ける交議機關として産業の發達、文化の向上に資する事の極めて急務である事を痛感し且つ切望して止まないのである。これ年頭に方り聊か平素の所懐を

希望を披瀝した次第である。

平時に於ける道路の軍事的價值

陸軍少將 廣 瀨 壽 助

軍事上道路の價值と言ふ様な問題は今更予輩の聲を大きくして述べ立てる必要もない事で各位の既に十分御承知の事と信ずるが我國の現状はまだ大に道路改良の促進を要し軍事上に於ける道路の價值に就ても尙ほ一般に了解してもらはねばならぬ點が尠くないと思ふので敢て筆を執つた次第である。

さて軍事上と言へば動もすれば戦時行動の場合のみを想像するが平時に於ても道路の良否を大に軍事上に關係を有するのである。

元來我國の道路は明治維新以前永年の間各藩割據して戦争のみを事として居た關係上殊更軍事上修築をせず又其の經始をわざと曲折を多くして交通を不便ならしめたと言ふ——此の例は予が先般香川縣地方に旅行した際親しく見た一例であるが其の他にも之れに類似の事柄は澤山あると思ふ——様なこゝもあつたので甚だ不良のものが多し是等は道路の經濟的使用と言ふ見地からは勿論の事軍事上から見ても至極不便なこゝで速かに改修せねばならぬこゝは茲に喋々を要しな